

トカゲはひっそり夢みている

いしざわみな

## 登場人物

鈴木一穂（スズキイツスイ）

通称名はカズホ 四十代半ば 図書館勤務

山岡美波（ヤマオカミナミ）

一穂の隣人 大学生

古城梨々子（コジヨウリリコ）

一穂の恋人 その昔、小劇場のアイドルと呼ばれた役者 三十代後半

鈴木一徹（スズキイツテツ）

一穂の兄 中学校教員 五十代前半

★すべての場面は、基本的に鈴木一穂の部屋で進行する。

## 第一場

緑の多いガーデンングが施されたベランダ。

その先に、清潔に整えられてはいるが、無機質な室内。

秋の陽光が美しく差し込んでいる。

隣にキッチン、その先に玄関があることがうかがえる。

一穂は何者か（観客には見えない）に話しかけながら、朝の食卓を整えていく。

一穂（ゆっくりと空を眺めて）秋晴れだよ、幸先いいな。気持ちいいな。最近よく食べるよね。ちよつと太ったんじゃないかな…。食欲があるのは健康な証拠だからいいけどさ、少しからだ動かした方がいいかもね。

ベランダに舞い落ちた紅葉に気づき、拾い上げる。

一穂 秋の匂いにする…。 今日、梨々子さんが来るよ。実はずいぶん前から行ってみたいって言われてたんだ。来月に入るとまた芝居の稽古が忙しくなるみたいだからさ、近くの紅葉でも見て、手料理をふるまおうと思ってさ、何ってくるか悩んだよ。何にしたと思う？ 基本的に家事はできるってとこを見せておいた方がいいと思うんだ。彼女も安心するでしょ？ ちよつと気にしてるみたいなんだよね…。 ほら、公演中とか家事がおろそかになるかも知れないって…。 もちろん、まったく問題ないって俺は言ってるんだけど。でも、そういうところいいよね！ で、俺の料理、あんまし出来すぎてマズイでしょ？ プレッシヤーになるからね。だからカレーにしたの。特製カレー！ 普通すぎる？ 普通じゃないよ。米にはとことん拘ったからね。知ってる？ キタキツネの泪。日本で一番カレーに合うって言われてる幻の米…。

朝の食卓が整う。

例えば、玄米パン、スムージーなど、その時々で健康に良いとされているものを取り入れた献立。

一穂 これ食べたらい物に行ってくるね。（両手を合わせ）いただきます。

玄関で呼び鈴が鳴る。独創的な音色。

一穂「宅配かな？」と言いつつ玄関へ向かう。

少し間があり「めずらしいな…」と驚いたような声。

美波（声） すみません突然！ 私は隣に住んでる山岡美波と申します。朝からすみません！

一穂（笑）知ってますよ、もちろん。

美波 あの、すみません。実はお願いがありました…。 今日はお休みですよ？

一穂 よく知ってるね。図書館で月曜日が休館日だから…。 あと交代で一日休めるんです

けどね。

美波 今、忙しいですか？

一穂 今？ 遅い朝めし食べてたところ。

美波 すみません！ 食べ終わった頃また来ます。

一穂 食べたら出かけるんですよ。よかったら上がって。食べながら聞くから…

美波 ご迷惑じゃないですか？

一穂 そりゃ迷惑ですよ。でも未成年の人からお願いと言われれば無視できないですよ。

未成年でしょうか？ あれ大学二年か？ 成人してる？

美波 十九歳です！ 2月生まれなんです…

一穂 とにかく話は聴きますよ。子どもは社会の宝、話を聴くのは大人の務めです。

美波 …すみません。おじやまします。

一穂 どうぞどうぞ…

一穂、戻ってきて美波に椅子を勧め、再び台所へ。

美波、遠慮がちに周囲を確認する。

一穂 どうかしたの？

美波 一人で住んでるんですか？

一穂 もちろん。なんで？ (美波の前にスムージーを置く) 飲んでください。今日のは

ね、○○と○○に○○が入ってて、なかなかいけるよ。あと自家製ヨーグルトもあるよ。コナツツオイルかけて食べてみて。

美波 自分でつくったんですか？ (両手を合わせ) いただきます。おいしい！

一穂 (微笑む)

美波 やっぱ都会ですよ。隣同士でも一年半ぜんぜん顔を合わさないなんて… なんか

緊張します。

一穂 引越し蕎麦もらったでしょう？ 今時引越し蕎麦っていうのも珍しいからよく憶えてますよ。

美波 色々考えたんですけど、東京のことはよくわからないし…

一穂 色々って？ どんな候補があったの？

美波 タオルとか… 地元の珍味の詰め合わせとか…

一穂 珍味ってどんなの？

美波 カツオの生節とか… ゴリの佃煮とか…

一穂 生ブシって生なの？

美波 生じゃないです。鰹節なんです。

一穂 じゃあ鰹節じゃない。

美波 削ってないんですよ。かたまりというか…

一穂 どうやって食べるの？

美波 そのままです。スライスして… お醤油の味がついてるんで。ガーリックとか塩と

かもあります。

一穂 どこから来たんだっけ？

美波 どこからって… 大西洋とかじゃないですか？  
一穂 大西洋から来たの？ 日本語うまいね。  
美波 私ですか！ 鯉かと思った。  
一穂 (笑う) オレ、鯉の出身地、聞きそうに見える？  
美波 (見える) そうですよ。私は高知です、四国の…  
一穂 高知？ 坂本龍馬だ！  
美波 それ、こっちに来て一〇〇回くらい言われています。  
一穂 十八ヶ月で一〇〇回か… 一ヶ月に5、5回だから一週間に一回強？ ホントに？  
美波 ……  
一穂 毎週一回言われるかなあ…  
美波 気持ちとしてはってことです。  
一穂 気持ち？  
美波 実際はもっと少ないですけど、一〇〇回くらい言われたような気持ちというか…  
一穂 ああ気持ちね (納得)  
美波 (安堵する) みんな坂本龍馬じゃないみたい…  
一穂 ほかもあるよ。最後の清流、四万十川！  
美波 (嬉しそう)  
一穂 まだあるよ。よさこい祭り！ やなせたかし、アンパンマンミュージアム！  
美波 よく知ってますね！  
一穂 讃岐うどん！  
美波 それは香川です。  
一穂 高知じゃないの？ 高知でしょ？  
美波 讃岐の国のうどんで、讃岐うどん。香川です。  
一穂 でも坂本龍馬も食べてたよね、讃岐うどん…  
美波 食べたかも知れませんが…  
一穂 龍馬がうどん食べてる銅像あるよね？  
美波 私は知りません。  
一穂 なんて月曜休みだって知ってたの？  
美波 え？  
一穂 さつき、今日お休みですよって…  
美波 いつも月曜日に洗濯物干してあるんで…  
一穂 (納得) それで、お願いって？  
美波 そうなんです…  
一穂 なんか緊張してきたよ。ほら、若い子にお願いされたことなんてないからさ、ドキドキするよね。  
美波 そんな難しいことじゃないです。  
一穂 うん。  
美波 あの私、今日これからデートなんです。ね。  
一穂 奇遇だねー 実は俺もなんだよ！  
美波 ……

一穂 ごめん、それで？

美波 それもわりと山場っていうか… 今日には彼の部屋に誘われてて… もしかすると、もしかするかも… みたいな？

一穂 もしかするともしかするかも… あ、そういうことか！（考える）どのくらい付き合ってるの？。

美波 三ヶ月くらいです。

一穂 三ヶ月でもう山場なんだ！ そうか、今はそういうものかあ… 十九歳だよな？

美波 （うなづく）

一穂 お父さん、いくつ？

美波 四十五です。

一穂 （驚く）おんなじ！ そうかあ…ということは二十六歳の時の子どもなんだよな… 二十六っていうと俺は…

美波 すみませんがお風呂貸してください！

一穂 風呂？ 壊れたの？ 管理会社に電話した？ もうつながるかな？

美波 私、十一時には出なきやいけないんです！

一穂 いいよ。

美波 ホントですか？

一穂 よかったよ、ゆうべ念入りに磨いたからさ、今ピッカピカだよ。

美波 （感心）几帳面なんですね。

一穂 今日は彼女が来るからね。

美波 奇遇ですよ！

一穂 それもわりと山場っていうか、もしかしたらもしかすると（美波を真似て）みたいな？

美波 初めてなんですか！

一穂 初めてじゃないよ！ 彼女がここに来るのが初めてってこと！

美波 （ホッとする）

一穂 （時間を見る）よし急ごう！ 造りは同じだから使い方はわかるよね。これから買い物に行くつもりだったから、その間にゆっくり使って。

美波 ……

一穂 （素早く片付けつつ）石鹸もシャンプーもリンスも好きに使っていいからね。

美波 ダメです。

一穂 敏感肌？ うちのは全部オーガニックだから、たぶん大丈夫だよ。

一穂 一穂、あつという間に食卓を片付け、外出用の帽子を被り、エコバッグを持ち、玄関へ向かおうとする。

美波 バスタオルは全部おんなじだから上から順番に使ってね。

美波 （追いつがる）あ…

一穂 （振り向いて）大丈夫、オーガニックコットンだから。

美波 待ってください！ そうじゃないんです…

一穂 風呂借りに来たんでしょ？

美波 そうなんですけど… 出かけられると困るんです。

一穂 大丈夫。内側から鍵かけていいよ。一時間もかからないでしょ？ 帰る時はそのままでもいいから。

美波 (おずおずと) ここにいてもえませんか？

一穂 ごめんね、買い物があるんだ。特製カレーの材料…

美波 すぐ出ますから！ 十分でいいです！

一穂 慌てなくていいよ。肉屋と酒屋と花屋に寄るから。あとケーキ屋も…

一穂、出て行こうとする。美波、追いつがるように

美波 一人じゃ入れないんです！ 一緒にいてください！ 出かけないでください！

一穂 (驚きと混乱)

美波 驚きますよね… すみません。でも怖いですよ、狭くて窓のないお風呂って… 狭

い箱みたいで息がつまって… 怖くて入れないんです。

一穂 春から、どうしてたの？

美波 時々銭湯に行ってる…

一穂 じゃあ銭湯に… ってまだ開いてないか。

美波 すみません！

一穂 (神妙に) あのさ、これ、貸すのが嫌で言うんじゃないんだよ。いいんじゃない？

一日くらい入らなくても。

美波 一日じゃないんです。

一穂 どのくらい？

美波 五日くらい。

一穂 五日？

美波 だって… 銭湯に行けない日だったんですよ。

一穂 バイト？

美波 私、量が多くてすごく重いんです。

一穂 そうか、そういうことか！ そういう時は銭湯に行けないんだ。女の人って大変だね。

美波 タンポンなら大丈夫らしいですよ。でもなんか怖くて…

一穂 (制する) でもどうする？ 彼の部屋に泊まることになったら！

美波 そうなんです。

一穂 彼が銭湯の息子ならよかったのね。

美波 (微かに怒りが)

一穂 一緒に入ってもらえばいいのか？

美波 できませんよ！

一穂 困るよなあ…

美波 どうしましょう(泣きそう)

一穂 女性から一緒に入ってるって言うのもなあ… どうかかな？ いいのかな？ 好みによ

るよなあ：

美波 絶対変な子だと思われますよね？ 何度もやってみたんです。大丈夫、なんでもない、ただのお風呂なんだから、ちよっと狭いだけで： でもダメなんです。真っ白い箱の中の小さな箱に入って、真っ白い天井や壁を見てると胸が苦しくなるんです。苦しくて不安で、叫びたいような気持ちになるんです。オカシイですよ？ お風呂に入るだけでそんなになるなんて： 気持ち悪いですよね： 私、オカシイんです（泣いている）

一穂、美波を見つめているが、やがてゆっくりと美波の頭を撫でる。  
微かに、トカゲの気配。

一穂 おかしくない。オカシイかも知れないけど、ぜんぜん問題ないよ。大丈夫。人はね、多かれ少なかれそういう部分を持っているんだよ。

美波 そういう部分？

一穂 もしかしたら自分はちよっとオカシイのかも知れないって悩んでしまうような部分をね。でも、ぜんぜん大したことじゃないんだ。

美波 鈴木さんもありますか？ オカシイとこ。

一穂 あるよ。だから、そんなに哀しんじゃだめだよ。

トカゲの気配、消えていく。

一穂 でも俺と一緒にいるわけにはいかないよなあ： どうしてもと言われたら入らないこともないけどさ。ちよっとまずいか： たぶん大丈夫と思うけど万が一ってこともあるし： 海パン履くか？

美波 （笑う）考えたんですけど： ドアは開けたままで、鈴木さんは背中向けて座っててもらって、ずっと話しかけてもらえれば、なんとか大丈夫かと思うんですよ。

一穂 やってみよう！

一穂、椅子を台所側へ持っていく。

美波、ふと視線を感じて素早く振り返る、が誰もいない。

二人、いったん姿が見えなくなる。

やがて一穂が戻ってきて、椅子に腰かけ、バスルームの美波に話しかける。

一穂 田舎のお風呂はそんなに広いの？

美波 そんなでもないです。この倍くらい。でも窓から田んぼが見えて、その先に海が見えるんですよ。

一穂 気持ちよさそうだねー（間）あのさ、ちよっと聞きたいんだけどね。

美波 はい。

一穂 ケーキなんだけど、こういう時はどう買えばいいのかな？

美波 こういう時って？

一穂 彼女が初めて部屋に来る時。やっぱり丸ごと買うものなのかな？

美波 ホールってことですか？

一穂 そう、ホール！好きなケーキ、聞いとけばよかったよな… 失敗したな…

美波 小さいのをいくつか買う方がいいと思います。

一穂 いくつかって、いくつ？

美波 鈴木さんは、ケーキ好きですか？

一穂 俺？わりと好き。かなり好き。

美波 じゃあ、五個くらい。

一穂 ゴコ…って五つ？

美波 五個は五つです。東京は違うんですか？

一穂 東京でも五個は五つだよ。

美波 よかった！

一穂 でもそんなに食べられないでしょ？

美波 女の子はそういうの嬉しいんですよ。

一穂 女の子じゃないけどね。

美波 そういうこと、ゼツタイ言っちゃダメですよ！

一穂 だれに？

美波 彼女にです！

一穂 だって四十近いよ、たぶん…。

美波 そのくらいが一番ビミョウなんです。

一穂 そうなの？

美波 もう女の子じゃないから…とか言いつつ、心はすごく女の子だったりしますからね。

一穂 わかった、気をつける。

美波 四十でも五十でも女の人はそういうの嬉しいんですよ。

一穂 食べ放題が？

美波 選べるってことです。

一穂 三つじゃだめなの？ 選べるよ。

美波 醍醐味が薄いんですよ。五個くらいあれば贅沢感があるし、なんか大事にされてる気がします。

一穂 じゃあ十個くらい買おうか？

美波 そんなにあると気味悪いです。

一穂 (感心) そういうことかあ… わかった。五つ買うよ。美波ちゃんはどんなケーキが好き？(返事がない) イチゴの？ チョコレート？ どうせ余るから、ごちそうするよ。どんなのがいい？

美波の憐れな叫び声とともに、暗転。